世界へ松濤中生 (Achieve a role in the global community)
自 立 (Grow) 尊 重 (Respect) 創 造 (Create)

学校だより

■発行
渋谷区立松濤中学校
渋谷区松濤1－20－4
■代表電話
℡ 03-3469-2451, 2452
■発行責任者
校長 斉藤 茂好
■HP.Adress
http://academic1.plala.or.jp/shoto/

NO. 3
6/3
平成27年度

今月の内容

【1面】
■PHOTO SKETCH
Sports Day
■校長メッセージ
デッサン像

【2面】
■
希望
ミクロネシア交流会

デッサン像

渋谷区立松濤中学校
校長 斉藤 茂好

赤ちゃんが誕生したとき、親は健やかに育つことを願って、最高の名前を付けます。生まれたことだけを祝福します。日が経ち、はじめて歩いたとき、一つのステップを越えた喜びに包まれます。片言を話し始めると、「父」と「母」のどちらの呼び名を先に覚えたか、楽しく競り合い、一喜一憂します。子供はだんだんと自分育ちをするようになりますので、おとなしくはしていません。親の都合などお構いなしで、親を一日中引きずり回します。家庭とは言っても、小さな社会です。たとえ幼児でもわがままは控えめにしなければなりません。そこでしつけが必要になってきます。親は子育てという役割を果たさなければならなくなります。しかしながら、「子育て」という学科目を履修し合格した経験は誰も持っていません。子供をどう扱ったらよいのかすら、はじめての経験です。そこで親はとりあえず、毎日の暮らしが滞りなく過ごせるように、子供に生活上のあれこれを教え込もうとします。親が忙しい時は、おとなしくしていること、夜はおとなしく眠ること、ミルクは時間通りにいっぱい飲むこと、部屋の中は走らないこと、何でも口には入れないこと・・、考えるだけで投げ出したくなります。それなのに、子供は親の言うとおりにはしてくれません。「何回言ったら分かるの？」と。

赤ちゃんから幼児までは、あっという間に育ちます。もうこんなことができる、こんなことを言うようになったと、その成長の速さに親は驚きます。しかしそのスピードは、やがて落ちてくるように見えます。動物的な行動である簡単なことはすぐに覚えますが、人間として覚えるべきことは複雑になってくるからです。そこで「しつけ」から「子育て」に転換します。子供が社会的人間としての育ちをはじめる時が来ます。これからの親は、「子供が育つとはどういうことか？」という問題に対して、しっかりとした見通しを持たな

ければなりません。そこでいろいろな情報を集めようとしても、情報が豊かな割には、個別的、断片的、専門的であって、全体像が見えてきません。まず子育てのデッサン像を描く必要があるのに、細部にとらわれてしまっては、完成はおぼつきません。

子供の性根に人間らしさをはめ込む道は、親の情愛に満ちた関係だけです。男女の情愛によって夫婦が誕生し、親子の情愛によって人間が誕生します。親が子供の前から親としての姿を隠したら、子供はどうして人間になれるでしょうか。自分をわが子として見つめてくれなくなった親に、子供は自分という存在を否定されたように感じます。アイデンティティというものは、存在感の自覚です。自分の思いこみによるものではなく、明確な確証を必要とします。それは親子の情愛以外にはあり得ません。子供は育てなければならない存在というより、慈しみ育て共に生きていく人生の同士です。

希　望

勉強をする理由は、「わからない」ことに慣れる練習をするということです。「わからない」ことから逃げ出さないというのが勉強であり、そのことが社会へ出てから一番役に立ちます。世の中に出たら、何とかやっていかなければならない。そんな時、満点がとれなくても、何点か点がとれれば次に進めます。「わかんない」から逃げ出さない心と体でいたら、必ずチャンスや希望はやってきます。

今、学校に限らず社会全体は、白 or 黒、ゼロ or 1と、はっきりとした答えを求めることが大勢ですが、希望というのは、むしろ訳のわからないところから出てくるような気がします。中学校・高等学校・大学を通じて、わからないけれど調べたい、わかるようになりたいという「わからん体験」が大事です。「わからん」ということに対するタフネスが肝要です。以前は「将来は日本一の・・・」という子供もいましたが、今はそんな希望をもつ子はほとんどいない。情報が豊富だから、無理だというのが早々わかってしまう。だから今の子供の方がしんどい。しかし、だからといって希望はもたないほうがいいということではありません。叶わなくても別の希望に成長していくことだってあります。中学生の頃の希望は叶わないけど、上手に変わって希望自体が成長していくこともあるわけです。

希望は叶えることも大事ですが、もっと大事なことは、希望を育み、希望を発展させること。修正発展させ、希望そのものを追い求めていくことが大事です。希望にはストーリー、物語があります。一筋縄ではいかないし、うまくいかないけれど、ああでもない、こうでもないと考えながらやっていく内に、また希望が生まれてくる。希望とは、人生という物語を紡いでいくそのものなのです。

キャリア教育では、人生という長い道のりをどうやって歩いていくかを学びます。しかし、人生きっと大きな壁にぶつかる。しかし、壁を乗り越えるより、壁にぶつかったら、壁の前でウロウロしていることがあったっていい。そうこうしているうちに、壁の小さな穴が見つかるかもしれないし、壁が崩れるかもしれない。ウロウロしていることと、わからないということに慣れること、逃げ出さない心と体を中学生のうちにつくっておくこと、これがとても大切です。飽くなき希望を追い求めるのが人生です。

ミクロネシア交流会
(Micronesian Friendship Day)

今月16日(火)赤道以北ミクロネシアの国々の生徒、随行者の方々が、終日、本校を訪問し、相互の文化交流を行います。特に今年度は、国立オリンピック記念青少年センター設立50年の記念事業として、例年より多く総勢113名の大訪問団の来校となります。国際理解推進校として直接他国文化を学ぶ絶好の機会です。

来校国(地域)

パラオ共和国
ミクロネシア連邦
(ポンペイ州、ヤップ州、チューク州、コスラエ州)
マーシャル諸島共和国